

I はじめに

本書は昨年度刊行した『平城京出土陶硯集成 I - 平城宮跡⁽¹⁾』の続編として、奈良文化財研究所（以下、奈文研）がおこなった2005年度までの発掘調査のうち、平城京域と南都諸寺院より出土した陶硯を全点集録したものである。これにより、宮、京、寺院を含めた平城京全体の陶硯の出土状況とその内容を示すことができた。

硯の使用実態の観点から、転用硯の様相を把握しきれていない点は今後の課題として残るものの、陶硯の存在は文字の使用を示す考古資料として古代史研究において重要な意味をもつ。奈良時代における陶硯の最大の消費地である平城京の様相を明らかにすることで、陶硯の生産、流通、普及に関する多方面からの研究の進展に寄与するものとなろう。

奈文研は約50年にわたり平城宮跡を中心に、平城京域および南都諸寺院の発掘調査をおこなってきた。2005年度までの発掘調査面積は、平城宮跡の約39万㎡に対し、左京域で約16万㎡、右京域で約4万5千㎡、平城宮北方を合わせると約22万㎡となる⁽²⁾。また、南都諸寺院の調査は約7万3千㎡である。出土した陶硯は平城京域371点、寺院187点の計558点を数える。次章では主要な調査について概説する。

(1) 奈文研2006『平城京出土陶硯集成 I - 平城宮跡』（史料77）

(2) 本書では平城宮北面大垣より北側については、平城宮北方と呼称し、平城京域として扱った。

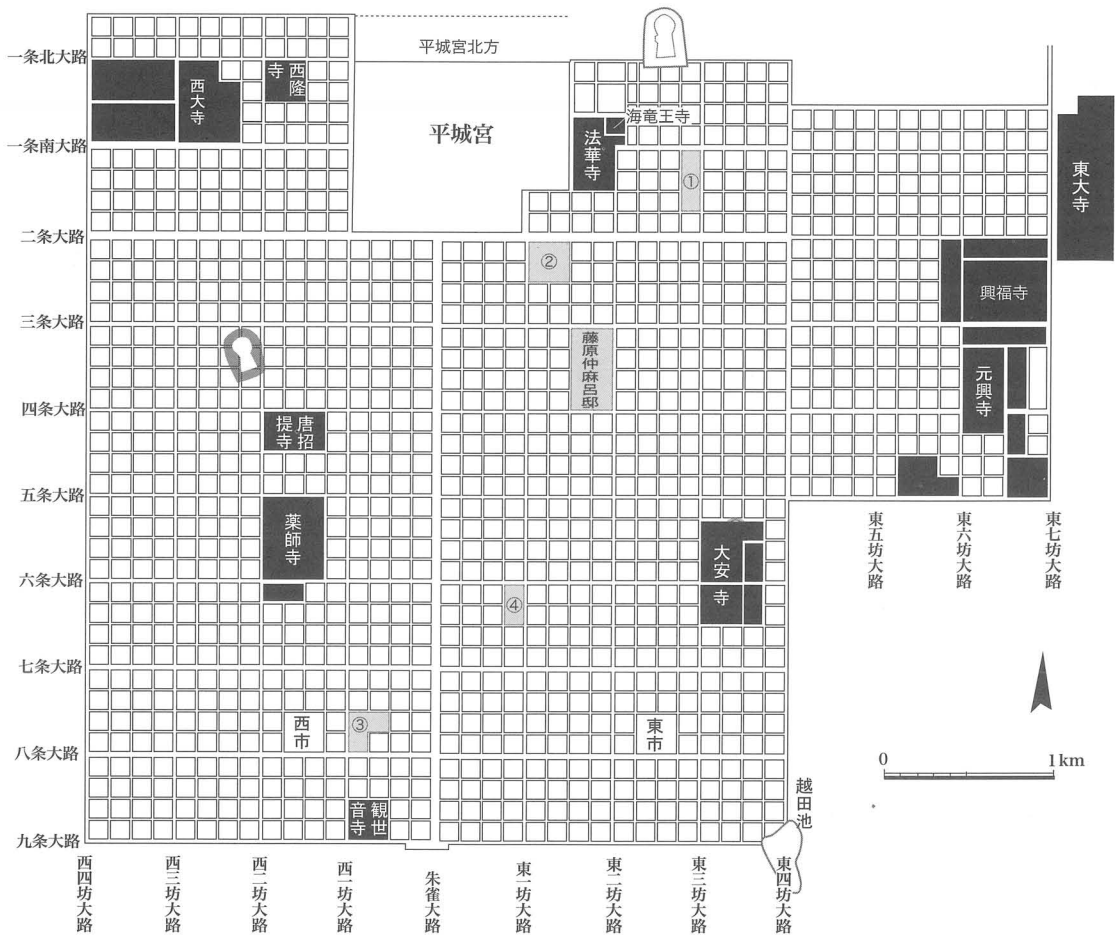


図1 平城京条坊図